

Lend a Hand
手を貸そう国際ロータリー第2750地区多摩東グループ
東京多摩グリーンロータリー・クラブ

Weekly Report



クラブ会長テーマ 手を貸そう! そして強く握ろう!

2004-2-4 第640回例会 NO. 14-29 2004-2-18 発行

◎司会 SAA委員会 田島真由美

◎点鐘 会長 大松 誠二

◎国歌斉唱
ロータリーソング「奉仕の理想」
ソングリーダー 菊池 敏◎お客様紹介 会長 大松 誠二
・小島資料館 館長 小島 政孝 様
・東京東江戸川RC 森本 弘 様
・岡山西南RC 椎原 裕二 様◎会務報告 会長 大松 誠二
・TAMA・デ・アート2003(多摩市民美術展)
当クラブで後援している展覧会ですが、多摩グリーンRC会長賞も決定しました。2月22日～3月14日までパルテノン多摩市民ギャラリーで、その後は多摩センター三越会場で展示されます。どうぞご覧になって下さい。
・2月18日、夜間例会の前に定例理事会を開催しますので、役員理事はご参集下さい。◎幹事報告 幹事 藤本 吉文
・2004～05年度全日本ロータリークラブ会員名簿(CD-ROM)及びロータリー手帳を購入希望の方は事務局までお申出下さい。(締切:2月18日)
・交換留学生ファティ(トルコ)から皆さんにメールが来ましたので、各テーブルにコピーを配布します。来年1月に大学卒業予定で、トンネル造りのエンジニアを目指し、日本の企業で働きたいと書いてあります。日本でクラブの皆さんにお世話になった感謝の言葉が述べられています。ご覧下さい。
・今月は例会の開催が変則となります。来週水曜日は祭

日のため、例会は定款による休会となります。また、再来週(2/18)は夜間例会に変更されます。2/25の例会は、26日及び27日の地区大会に振替えとなります。間違いのないようお願いします。

◎次年度会務報告 次年度会長 菊池 敏
・本日例会後、本会場のロビーで被選理事会を開催しますので、次年度役員理事の方はご参集下さい。

【委員会報告】

◎出席報告 出席委員会 小林 正
・会員総数 43名
・出席義務者数 42名(出席免除者1名)
・出席者数 36名
・欠席者数 6名(事前MU0名)
・出席率 85.71%
・欠席者:藤原 正範、萩生田茂夫、加藤喜三郎、正房 正孝、澄川 昇、由井 眞司
・補填MU:小城 章員 2/3 東京飛火野RC

1/21 最終訂正出席率 76.19%

◎ニコニコBOX 親睦活動委員会 萩生田政由
東京東江戸川RC 森本 弘 様
いつもお世話になり、ありがとうございます。
大松 誠二 小島様 新撰組の卓話、完結編楽しみにしています。
藤本 吉文 小島様の土方 歳三の卓話 楽しみです。
杉野志保子 連続2回もお休みしてしまってゴメンナサイ。
阿部 華歌 お陰様で、忘年会、新年会の時期を何事もなく乗り越えました。皆様には当社のコン

東京多摩グリーンロータリー・クラブ事務局

東京都多摩市落合1-43 京王プラザホテル多摩561号
TEL 042(372)6463 FAX 042(372)6491
E-mail tamagrc@cello.ocn.ne.jp【例会場】京王プラザホテル多摩・たまつばき4階
【例会日】●毎週水曜日12:30 ●月の最終例会18:30
【会長】大松誠二 【幹事】藤本吉文
【クラブ会報委員長】赤尾恭雄 【副委員長】正房正孝
【委員】速藤二郎・平野行廣・佐伯和廣・澄川昇・高木淳光・由井眞司・小田泰機

パニオンが世話になり、ありがとうございました。又
よろしくお願ひ致します。

小林 正 本日はいつもの例会場が取れず、ご迷惑を
おかけしてすみません。

赤尾 恭雄 国際大会の宿泊先、岡山西南RCを含めて
30名でとりあえず申し込みを終えました。

津守 弘範 小島さん、引き続きありがとうございます。

田島真由美 小島様、先日のお話の続き、楽しみにして
います。

北村 幸彦 小島様、卓話楽しみです。

萩生田政由 小島様の卓話、楽しみにしています。

村上 久 先週夜間例会後の楽しく飲む会（語る会）
つり銭です。

本日の合計¥19,998（累計¥616,559）

◎表彰

・米山功労クラブ（第14回）

米山奨学委員長 小城 章員

昨年11月で、当クラブは14回目の米山功労クラブを
達成しました。当クラブは80%以上の方が米山特別寄
付にご協力いただき、1人当たり約15,000円を達成して
おります。地区目標一人当たり20,000円に比して満足
すべき貢献と考えます。

・ロータリー財団寄付

ロータリー財団委員長 宮本 誠

マルチプル・ポール・ハリス・フェロー

檜垣 昭（3回目） 津守 弘範（1回目）



ポール・ハリス・フェロー

小城 章員 杉野志保子



先週開催された地区クラブ財団委員長会議の報告を
致します。

セバスチャン・サルガド写真展の寄付金、ロータリー
関係で約200万円、子供達を含めたロータリー以外の
方々からの約40万円をポリオ撲滅基金として寄付い
たしました。

当クラブの財団寄付は、前半期で会員の83~84%の
方々が100ドル寄付にご協力いただいております、かなり
高い貢献度が達成されていると見込まれます。

◎ゴルフ同好会

菊池 敏

・JGFRからお花見大会のご案内
詳細は事務局へお問い合わせ下さい。

・スクラッチ会コンペのご案内

3月31日、最終例会当日、東京国際CCにて開催
詳細は別途ご案内します。

◎親睦活動委員会

委員長 伊澤ケイ子

本日の例会後、親睦活動委員会を開催いたします。

議題は、4月11~12日の移動例会（親睦旅行）につい
て。



◎卓話 『エピソードにみる土方歳三の実像』
 小島資料館 館長 小島 政孝 様
 (東京町田サルビアRC会員)

土方歳三の生家は、多摩郡石田村（日野市）で、多摩川と浅川に挟まれた村である。歳三の家は、多摩川寄り石田寺側にあった。歳三が12歳になった弘化3



年6月30日には、何日も長雨が続き、集中豪雨のために多摩川が増水し、歳三の家は本宅や土蔵が流されてしまった。歳三の父は、彼が生まれる前に没し、母も彼が6歳の時に没したので、兄夫婦に育てられた。歳三は6人兄弟の末っ子であった。戸籍の名前は歳蔵だが、彼は改めて歳三とした。夭折の兄弟を除くと、彼は四男である。土方家では、浅川の河原に生える牛額草（ミゾソバ）を6月に摘み取って、これを焼いて炭の粉にしたものを打ち身の薬とした。歳三はこれを売り歩いた。作家の司馬遼太郎は、草を刈り取るときに村人を動員し、指揮したのは歳三で、ここに彼の統率能力の原点があったと述べている。

歳三は心の優しい人で、26歳の時に小野路村の小島鹿之助の母きくに宛てた書簡が残っている。きくは、風邪をこじらせ体調を崩して長かった。歳三はこの話を聞いて、見本の新しい風邪薬を送ったが、薬が強いと身体に悪いので、1回に飲む分を、3回に分けて服用するようにと、優しい心遣いをしている。



歳三は頭の回転が早く機転がきいた。奥羽戦争の時、彼は少人数で間道を抜けようとする、的が物陰から鉄砲を撃ってきた。すると、味方の兵に「（とき）の声を上げよ」と言った。大きな声で「エイエイオウ」と3回叫ぶと、敵側もこれに負けじと呼応してきた。この声を聞いて、「敵は少数だ、突破しろ」と怒鳴った。こうして間道を抜けることができた。土方はナンバー2にあったが、近藤が斬首されてからは、リーダーシップを発揮した。

◎点鐘 会長 大松 誠二
 (例会担当：赤尾 恭雄)

『ロータリー知識』 入門編
 会員増強に関するRI会長メッセージより抜粋

ロータリーが継続的な実行力をもっているのは、あらゆるレベルで会員増強の努力が実を結んでいるからです。

会員増強は、国際ロータリー（RI）の哲学的かつ実務的な礎石となっていると言われてきました。四大奉仕部門は「ロータリーの綱領」を満たすために、活動的会員と会員増強を求めています。

強力かつ成長する会員基盤があれば、ロータリーは、平和、理解、善行を推進する努力を強めながら、それぞれの地域社会や世界中で人道的かつ教育的な仕事を広げることができます。

それは、ロータリー財団への財政的支援を提供し、ロータリーの公共イメージを高め、私たちのクラブへ斬新な見方を提供し、そして将来のロータリーリーダーを育成する手助けをし、さらにロータリー家族で、非ロータリアンの家族を招き入れる機会をつくります。

私たちがロータリーを次世代に受け継いでもらいたいと望むならば今の会員層に新たな血を注ぎ込む努力を続けなければなりません。

私たちが新会員を入会させたり、新クラブを創設したりするという挑戦に焦点を当てなければ、ロータリーは衰退の道をたどることは明白です。

ロータリアンがより多くの男女をロータリーに迎え入れるだけではなく、それらの人々が着実にロータリアンであり続けられるために、新会員にロータリーの精神を浸透させるようにお願いします。新会員とその家族がロータリーに馴染めるように手助けしてください。

(コーナー担当：遠藤二郎)



ポール・ハリスを我々の心に！ Part 28

ウォリングフォードには、突然見せ物がやってくるものがあつた。その中に年配のフランス系カナダ人がいた。彼は立派な口輪のついている大きな茶色の熊の「端綱」を取って現れた。そして、手練手管を使って、不格好なダンスを踊らせたり、或は彼とレスリングをしたりしたが、固唾を飲むような場面もあつた。

ショウが進むと、彼は訳の分からないような言葉を使った。ポールには「さあ、回れ」だけしか分からなかったが、熊はグルグルと回った。もっとも熊に言葉が分かったかどうかは不明で、見物人にすら何を言っているのか、殆ど分からなかった。彼は何か言うと同時に、熊の首の周りの「端綱」の間に上手に輪を作るので、熊は気持ちが悪いかグルグル回った。熊は言葉より綱引きの方がよく分かったのではないだろうか。

時々、自称「ドクター」という、勿体ぶつた行商人が塗り薬「キカブー」を売りに村にやってくる。リューマチに効くインディアンの治療薬との触れ込みだった。患者達は「キカブー」1ピンを適正価格の1ドルで買って塗ると、病気は直ぐに治った。また、「ドクター」は人集めのために、無料で虫歯を抜いてくれたが、少しも痛くないと言うことだった。運搬用の荷車に照明用のカンテラを取り付けたものが、売店兼治療室だった。「ドクター」はリューマチと歯痛にとっては天敵のような存在だったが、大抵の人はその内のどちらか、或はその両方で時々悩まされていた。歯の痛い人達が、ただで歯を抜いて貰うために列を作って順番を待っているのを見てると物悲しくなつた。「キカブー」という薬がどうしてリューマチに効くのか、「ドクター」にどれだけの医学知識があつたのか分からないが、歯の抜き方だけは知っていたようだった。広告通りに、抜歯は痛くなかつたのか、それとも実際は痛かつたのか、明確ではなかつたが、痛いに決まっているという疑いを持っている人は相当いたようだった。しかし、普通は50セントか1ドルは取られるので、節約家のニューイングランド人にとっては大した痛さではなかつたのかもしれない。「ドクター」は「ちっとも痛くない」を繰り返して、抜歯の最中でも大声で「痛くない！」と叫んでいた。虫歯が治せるなら、リューマチも直ぐ治せるという理屈だったが、僅か1ドルの「キカブー」が実際に病気に効くのは、ポールにとっては不思議だった。

(コーナー担当：赤尾 恭雄)

ポール・ハリスを我々の心に！ Part 29

ポールは子供の頃、よく病気に罹つた。おたふくかぜ、麻疹、猩紅熱等だった。当時、ニューイングランドの医師達は二つの学派に分かれていた。多量の薬を処方する「アロパチー学派」と、少量の薬を処方する「ホメオパチー学派」だった。一度一つの学派を頼ると良かれ悪しかれその学派を頼り続けることになった。我が家はアロパチー派だったが、幸いなことに我々一家の中にアロパチー派の医師がいた。それはラトランドのジョージ・フォクス先生で、父の妹、つまりメリー伯母さんのご主人だった。ジョージ伯父さんの兄弟で、ウォリングフォードで開業していたビル先生と区別するために、伯父さんのことは「ドクター・ジョージ」と呼んでいた。ポールがウォリングフォードに行く前に亡くなったジョン先生は、ビル先生とジョージ先生のお父さんで、長い間、我々一家の家庭医をつとめてくれていたとのことだった。

ある晩のこと、ポールはひどい病気に罹り、急に部屋全体がグルグルと廻るような衝撃に陥つた。気が付くと居間に置いたベットの中に押し込まれ、脇には石油ストーブが置かれていた。ジョージ伯父さんが側に座って心配そうにポールの顔を覗き込んでいた。伯父さんは忠実な名馬ビリーを駆って雪の中を往診してくれたのだった。ジョージ伯父さんとビリーは、お互いに信頼し合っているコンビで、我々が住んでいた地域全体の人々の健康保持に一生懸命努めてくれていた。名馬ビリーは責任感が旺盛で、昼夜を問わず何時でも馬具をつけ、ニューイングランド名物の猛烈な嵐や吹雪の中を突進していく熱意に燃えていた。

老練な伯父ジョージ先生の努力で、ポールは直ぐに元氣を取り戻したが、生来あまり丈夫でないポールは、続けざまに病気になるまで相当弱っていた。しかし、養家の祖父母が万事行き届いた世話をしてくれたお陰で、生まれつき、か弱いポールも次第に丈夫な身体になっていった。



大概の病人は、灰色の顎髭を生やしたドクター・ジョージが、栗毛のビリーの手綱を取って庭先に現れると「やれやれ助かつた」と思うのだった。我が家の家族の診療は勿論無料だったが、ジョージ伯父さんにはどうでもよいことだった。他の伯父さん達の中には祖

父に世話になるポールを快く思わない節もあつたが、ジョージ伯父さんに限ってそんなことはなかつた。

(コーナー担当：赤尾 恭雄)